



— 笑顔あふれる明るい未来を目指します —

怱心をつむぐ あしたを織る



↑ HP

2025 年春号 発行

編集発行：公益財団法人あすて 豊田市本町本竜 43 TEL (0565) 52-0362



設立記念日(12/11)を覚えて、あすての意義を確認する日

あすての日

2026 年に 60 周年を迎えるあすてが、なぜ「ものづくり」を事業の主軸にしているのか、その意義やこれからの夢について関係者を招いて 2024 年 12 月 8 日(日) にパネルディスカッションが行われました。

〈テーマ〉 **「ものづくりが築く未来の社会」**

〈パネリスト〉◆五十嵐陽二郎氏：Re:made 代表（鳥人間コンテストでの挑戦と日本の町工場の持つ知識、技術、人材の連携を目指す）

◆梅村晋平氏：豊竹（間伐竹のあらゆる有効活用に挑戦中）

◆白井 博氏：アイシン（グループ人事本部、アリーナ社会貢献担当）、あすて評議員

◆豊田彬子氏：あすて理事長

◆◆ 活動紹介 ◆◆

五十嵐：鳥人間コンテスト出場の経緯は、最初は草野球チームだったのが、就職や結婚で人が減り、ものづくりが好きなメンバーが次なる活動を模索するうちに同コンテストに行き着いた。スタートは 2018 年。最初の 3 年間は基本情報の収集と研究など下積み期間。2022 年メンバー 33 名（3 名は地元人）、2024 年初出場。

「100m 飛ぶ！」の目標に対し、結果は 36.03m（14 位 / 16 チーム）。学んだことは、「素人でもやればできる」「地元のつながりは大切」金型屋の父の協力を得て、「町工場は知識、技術、人材が豊富で底力がある」と。

梅村：当社は、コンクリートの型枠やトラックの下敷きとして使用する硬くて重たい竹の板を製造。このために竹の一番良いところだけを使用してきたが、竹を 100%使い切るために様々な機関と連携しつつ有効な活用法を探っている。取組み例：①牛の飼料（現在 99%が輸入）②防草 ③舗装 ④豊竹 SOIL（農作に適した肥沃な土）=間伐竹チップ+微生物【参照 p. 3】

豊田：カローラなど大衆車の大量生産にともなう人手不足で、全国から中学を卒業したばかりの若い勤労者を迎えた高度成長時代の 1966 年に、あすて（旧憩の家）は設立された。親元を離れて淋しさがつのる中で婦人ボランティアがお袋役を担った。やがて彼らは高度な技能・技術を培い、後輩に引き継いで退職し、今度は社会のために技能・技術をいかす時が来ている。

その機会と場を提供するのがあすての使命と考え、ものづくりを事業の基軸に置いた。

白井：インドに駐在していた 10 年間は毎日がピンチの連続だったが、成功に切り替えられた秘訣は「リスペクト（尊敬）」。多様性社会においては相手の全てをリスペクトして受け入れることが大事だと学んだ。

◆◆ 「夢」について一言 ◆◆

五十嵐：日本の町工場の多くが倒産していく中で、その持てる知識、技術、人材を活かせる団体を作って「ものづくりのハブ」としてチャレンジしていきたい。

梅村：竹が道具の材料だった頃は竹林の側に人が住んだが、今はその竹林も荒廃の一途。国は土地の寄贈は受けても竹林は除外するほど厄介者扱い。その竹を枯れたものまで含めて 100%を有効な資源にしたい。

白井：アイシン安城工場跡地に 5,000 人収容の豪華な新アリーナを建設予定。実は愛知県はプロスポーツが盛んな土地柄。子ども達ははじめ三河の人がトップレベルのアスリートを間近に見ることで地元を誇りを持ち、新幹線ひかりが三河安城駅に停車するようになって、西三河に人のにぎわいを作りたい。

豊田：世の中はハイテクになっているが、その基は「人間の手」。あすてはものづくりの基本である「手でつくること」にこだわり、いろいろな技能を持った人たちが集まって知恵を絞りながら笑顔あふれる社会を作っていきたい。



プロの技を伝授します

あすてでは、丘プロマイスター(丘 KOBА プロジェクトのマイスターの略、トヨタグループ及び関連会社ベテラン技能士グループ)がプロの技能を通じた社会貢献活動を目指しています。

県内工科高校自動車科 教諭対象に

12/3 県内4工科高校の教諭11名技能研修

丘プロマイスターが金 KOBА において自動車部のある豊田、刈谷、小牧、名古屋の4工科高校の教諭11名対象に実践的な板金の講習を行いました。普段、職人技に触れる機会がない工科高校教諭の皆さんの真剣な眼差しが印象的でした。



12/7, 14, 21 豊田工科高校教諭6名が板金、塗装等

丘プロマイスター2名によってあすてと同じ地域内にある同工科高校の教諭対象に、へこんだ車のフェンダーを教材に「板金、塗装、磨き」の実践的講座(3回)が行われました。



小中学生対象に工具の使い方「未来学校」全6回

削る・しめる・ゆるめる・はかる・叩く・塗る・切る・曲げる



子どもたちに安全かつ有効な工具の使い方を学んでもらおうと丘プロマイスター6名が講師となって基本講座「未来学校」が開かれ、小中学生6名が参加しました。内容は、①10/19「工具全般の基礎知識」「金属表面の削り方」②11/16「ネジのしめ方・ゆるめ方」③12/21 メジャー、スケール、ノギス、テスター



を使った「はかり方」④1/18「釘やダボの叩き方、刷毛の塗り方」⑤2/15「紙や針金等の切り方、曲げ方」⑥3/15 学んだことを活かして「集大成」。

マイスターによって毎回充実した内容が組み立てられ、参加した子どもたちにとっては生涯役に立つ体験と知識を得る機会となりました。



あすて×森のプレゼント×団体 ～子ども施設に間伐材ベンチを寄贈～

団体より寄せられた協賛金を元に間伐材を有効利用を目指すボランティアグループが作成した間伐材ベンチを市内外の子ども施設に寄贈しています。

11/6 協賛：(株)豊田自動織機
寄贈先：半田市市内保育園
寄贈品：間伐材ベンチ24脚



1/29 協賛：豊田西ロータリークラブ
寄贈先：豊田市立永新子ども園
寺部子ども園
寄贈品：間伐材ベンチ 各2脚



国会議員・愛知県知事・県会議員 ものづくり「技能伝承」の現場を見学

丹野衆議院議員(右)大村県知事(下左)、神谷県会議員(下右)が、各々あすてを訪れ、ものづくりによる社会貢献、特に技能伝承活動を見学しました。





厄介者扱いの竹 100%活用が目標!

現代社会においては厄介な存在となってしまった「竹」を枯れたものまで含めた100%を有効に使おう、という試みがあすて内で行われています。豊竹とコラボして間伐竹チップから農作に適した肥沃な土づくりや舗装、防草の実験中です。

間伐竹チップ + 微生物 = 肥沃な土づくり (豊竹 SOIL)



① 11/6 : 竹 80 本分の間伐竹チップ 2.4t がテント広場に搬入されました。



②竹の硬い組織をも分解する特殊な微生物を噴霧します。

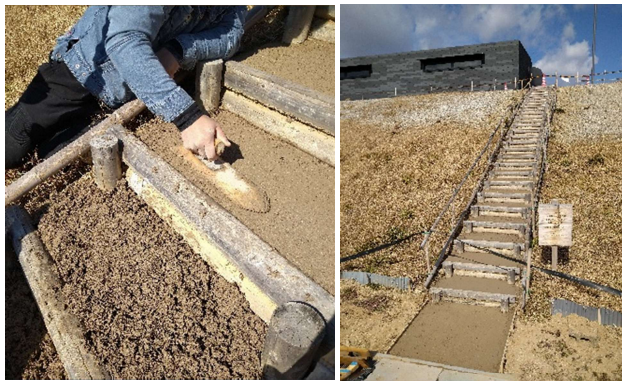


③熟成を促進させるために時々攪拌します。作業にはボランティアの協力が欠かせません。



④微生物が発生させる熱を体感しました。熟成が順調であれば55℃くらいになることもあります。

舗 装



間伐竹チップに土と凝固剤を混ぜたものを塗りながら乾燥させると硬く固まります。歩きやすく、景観もよくなりました。

防 草



雑草の生えている土を取り除き、その上を間伐竹チップ層(10 cm)で覆い、草の発生を防ぎます。



ものづくりの楽しさを感じよう！



クルマづくり究めるプロジェクトの子ども達がレストアした車

ものづくりリンピック

ものづくりの楽しさを伝えたい！と、「ものづくりリンピック」があすて主催で3月20日（木・祝）に行われ、750名が来場しました。あすてのものづくりグループをはじめ、トヨタ自動車、アイシン、豊栄の各社にもブース出展していただき、子ども達が第一線で活躍されている社員の方々とものづくりを楽しく体験する機会となりました。

↓水素ミニ四駆製作 & 試走 トヨタ自動車



LEGO アイデア賞コンテスト 表彰式

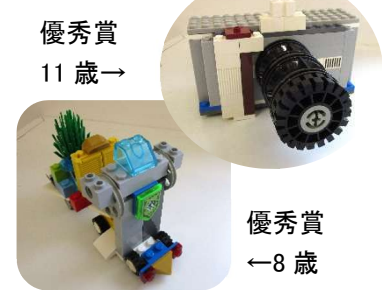


10歳

最優秀賞



↑バイブレード製作 & 体験 アイシン



優秀賞 11歳→

優秀賞 ←8歳



↑漆喰塗り & 手形などアルバム作り 豊栄



段ボール織り



間伐材カー作り



作って飛ばす！プラコプター



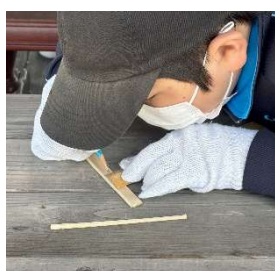
動きがおもしろい♪からくり作品



ならしてみよう♪手回しオルゴール



アクセルとブレーキ 踏み間違い装置の説明



竹トンボ作り



シャルマンブラスによる演奏



キッチンカーも出店